

第2回岩国市地域福祉計画素案策定委員会 審議要約

- 1 開催日時 平成21年5月20日(水) 18時30分～20時
- 2 開催場所 岩国市役所 2階 特別会議室
- 3 出席者 【委員13名】
瀧山委員長、澤井副委員長、今田委員、植野委員、大谷委員、河角委員
川野委員、嶋田委員、田原委員、中佐委員、中村委員、橋本委員、村岡委員
【事務局】
健康福祉部長 藤本、社会課長 福岡、社会課長補佐 山下
社会課地域福祉推進室長 中原、同室 松本
- 4 議題 (1) 地域福祉計画の骨子について
(2) 素案策定委員会の議事録(要約)の公開について
- 5 傍聴者 なし
- 6 審議要旨
 - (1) 地域福祉計画の骨子について
 - 基本理念「生き生き」よりも、「安心して暮らせる」の方が受け入れやすいのではないかと。
 - 行政は、様々な取組に対して「調整する」役割が求められる。
 - 行政は「地域リーダーの養成」など、地域の人材の育成などに力を入れて欲しい。
 - 住民が空地に自分たちで小さな建物を建てて、地域住民が気軽に集える場所として活用している事例がある。
 - 岩国市社会福祉協議会は現在2回目の地域座談会に回っている。地域福祉活動計画は、地域で実際に活動しているところを反映しながら施策に繋げることや、岩国市社会福祉協議会がどう担っていくのかなどを検討している。
 - 岩国市の地域福祉計画と岩国市社会福祉協議会の地域福祉活動計画とは、アンケート結果などをお互いに共有するなど、密に連携しているので、お互いの計画の考え方などが全く違うものになることはない。
 - 高齢者保健福祉計画など他計画との地域福祉計画の位置付けにおいて「横断して補完」とは、程度により公的福祉サービスを受けることができない人に対する地域住民の助け合いなど、地域の中で支えていく必要があるという意味で補完している。また、他計画においても、地域が重要なテーマになっており、整合性がとれるようにとの意味で補完としている。
 - 「住民一人ひとりが積極的に手を差し伸べていくことが必要」とあるが、高齢者には「他人の世話を受けたくない」「迷惑を掛けたくない」と思っている人が多い。その実態を念頭に置いて、どのようにクリアするかを考えなければならない。
 - 人との交流に拒否感を持っている人はいるが、結局は声を掛けていくしかない。放っておくとますますおかしくなる。

- 個人情報をごくまで出していくのかを整備してもらいたい。
- 防災会など、それぞれの情報が共有できないと機能しない。
- 団体の代表が1年交代してしまうところが多いが、地域のことは、何年も地域の代表を務めないとわからない。
- 回覧板などすぐに回り終えて戻ってくるが、実際に回覧した情報を把握している人は少ない。
- それぞれの地域の団体が会員になって、ひとつのグループになれば防犯防災などの取組も一緒に対応できるかもしれない。
- 地域福祉計画の中に先進事例を載せれば参考になると思う。計画や施策の箇条書きだけではなかなかイメージが膨らまない。
- 計画の骨子については原案を了承する。

(2) 素案策定委員会の議事録(要約)の公開について

- 議事録(要約)の市ホームページでの公開について、特に意見なく了承される。